



東洋水産から株主の皆様へ

## 第59期 中間決算のご報告

2006年4月1日～2006年9月30日



東洋水産株式会社

証券コード: 2875



いつでも 炊きたて 簡単・手軽

# 加工包装米飯でも“おいしさ&高品質”を追求!

食の多様化で加工包装米飯は毎年需要を拡大。  
皆様のニーズにお応えした製品をお届けします。



麺類でも加工包装米飯でもロングセラー。  
いつまでも愛されつづける商品開発。

当社では、麺類ばかりではなく、加工包装米飯でも長い歴史をもっています。中でもレトルト米飯「味の一品赤飯」は、当社のロングセラー商品である生麺の「焼そば3人前」や「赤いきつね」の前身の「カップうどんきつね」と同じ1975年に発売が開始され、長期にわたって皆様に愛されてきました。これからも品質や素材、製法の一つ一つにこだわり、いつでも安心してお召し上がりいただける独自の製品を生み出していきます。

無菌包装米飯第2工場を新設し、  
生産性の向上をいちだんと推進。

マルちゃんブランドの「あったかごはん」シリーズを生産している無菌包装米飯の第2工場が、2006年6月に完成しました。完成後は第1工場とあわせて従来の倍に当たる、年間8千万食の生産が可能となります。食の個食化や多様化で米飯のニーズは年々増えつづけていますが、工場の新設により、簡単・手軽な無菌包装米飯ならではのおいしさを、より多くの方々にお届けできるようになりました。



おいしさの決め手

「あったかごはん」

のこだわり

## 「特徴」

お米に対して負荷の少ないHTST（高温短時間）製法で製造しています。酸味料や保存料を全く使用していないので、お米本来の「香り」と「旨味」が活かした無添加ごはんです。

加圧釜炊きの個食炊飯製法でやさしく炊きあげました。個々のトレー容器に充填してから直接炊きあげる「個食トレー炊飯」のため、一粒一粒お米が立っており、ふっくらと自然な炊きあがりです。

トレー容器は、炊飯工程時の水分量の均一化や電子レンジでの調理時に、ごはん温度のムラが発生しないよう工夫した当社独自の設計を行っています。

## 当社の加工包装米飯製品

### 【無菌包装米飯】



**あったかごはん**  
レンジで温めるだけでいつでも炊きたてであったかごはん。酸味料不使用。



**あったかごはん 新潟産コシヒカリ**  
新潟産コシヒカリを100%使用したおいしいごはん。お米本来の「味」と「香り」が活きています。



**あったかごはん大盛**  
好評の「あったかごはん」にさらに397を使った大盛が登場しました。育ち盛りのお子様にもどうぞ。

### 【レトルト米飯】



**あったか 赤飯**  
厳選された国内産もち米を100%使用。(トレー入り)



**あったか 五目釜めし**  
鶏肉とごはんの風味が効いた五目釜めし。(トレー入り)



**味の一品 赤飯**  
国産もち米100%使用のロングセラー商品。

### 【レトルト米飯 健康応援シリーズ】



**玄米ごはん**  
山形県産はえぬき米を100%使用した玄米ごはんです。独自の製法により、食べやすくふっくら炊き上げました。



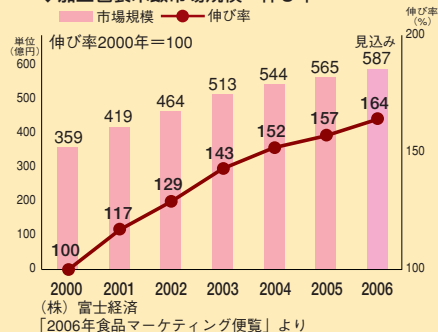
**十穀ごはん**  
10種類の雑穀をブレンド。食物繊維・ミネラルが多く含まれています。



**発芽玄米ごはん**  
白米と同じ食感のマイナスイオン玄米を100%使用したごはんです。

## 伸びつづける加工包装米飯

### ◆加工包装米飯市場規模・伸び率



### ◆当社加工包装米飯の売上高・伸び率



### 市場動向

加工包装米飯市場は、核家族化や少子高齢化などによるライフスタイルの変容、また、製品の品質・安全性の向上により市場は年々拡大しています。当社は、2001年に無菌包装米飯市場に本格参入するとともに、レトルト米飯ではトレー商品を追加発売し、市場を上回る伸びを示しています。

## マ・メ・知・識

### 無菌包装米飯とレトルト米飯の違い

無菌包装米飯とはトレーに生米を充填し、加熱殺菌処理を行ってから無菌状態の中で炊飯密封したものです。これに対してレトルト米飯とは、容器に蒸煮米を充填し、密封後にレトルト(加圧加熱)殺菌を施したものです。それぞれに利点があり用途も異なりますが、白ごはんには無菌製法、赤飯などの混ぜごはんにはレトルト製法が適していると言われてます。

## 「品質管理」

無菌包装米飯は高度な細菌管理工程が要求される商品です。当社はISO9001、ISO14001を取得した工場で製造し、原料米の受け入れ検査やトレーサビリティの徹底、また、当社独自に残留農薬検査を実施する等、安全・安心な商品供給に努めています。



株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

さて、当社第59期の中間決算を終えましたので、営業の概況をご報告申し上げます。

## 当中間期の概況（連結）

景気回復基調により個人所得が緩やかに増加する中、梅雨明けの遅れなどの一時的な要因により夏頃から個人消費の伸びは鈍化し、消費者物価も概ね横ばいとなっております。

当食品業界においては、少子高齢化による市場の縮小傾向などから、企業間競争は一層激しさを増し、依然として厳しい状況が続いております。また消費者の食の安全面に対する厳しさは引き続き増しており、当業界は今まで以上に品質管理の強化への対応、環境問題への対応、更には個人情報保護など企業の社会的責任がますます求められております。

このような状況の中、当社は、「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを目的に、ISOの認証取得、製品情報管理システムの構築等、安全な食品作りに積極的に取り組んでまいりました。また厳しい販売競争に対応するため、グループの生産・物流体制の再構築を進め、より一層のコスト削減ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

当中間連結会計期間の業績は、売上高は前中間連結会計期間に比べ0.4%増収の157,546百万円、営業利益は前中間連結会計期間に比べ5.5%減益の8,973百万円、経常利益は前中間連結会計期間に比べ1.3%増益の10,059百万円、中間純利益は連結子会社の田子製氷(株)を株式交換により完全子会社とした際に発生した

のれんの減損損失を特別損失に計上したこと等により前中間連結会計期間に比べ96.3%減益の304百万円となりました。

## 通期の見通し（連結）

わが国の経済情勢は、国内民間需要を中心とした回復基調が維持されると想定しておりますが、原油価格の動向が内外経済に与える影響には引き続き留意する必要があるものと思われま

す。当業界におきましては、競争激化による販売価格の低価格化傾向は続き、厳しい市場環境が継続するものと思われま

す。そのような状況の中、当社は消費者ニーズを捉えた商品の開発に努め、高付加価値の商品を提案していきたいと考えております。さらに地域別・商品別の販売促進を強化した積極的な営業活動を実施するとともに、前期とほぼ同額の経常利益の達成を目指しております。また費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流の再構築・生産部門での徹底したコストの削減に注力していく所存であります。

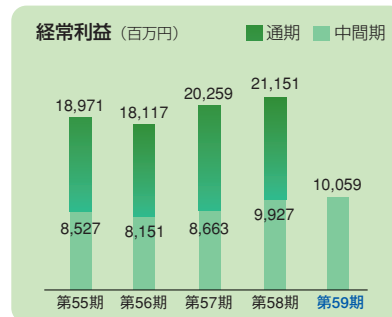
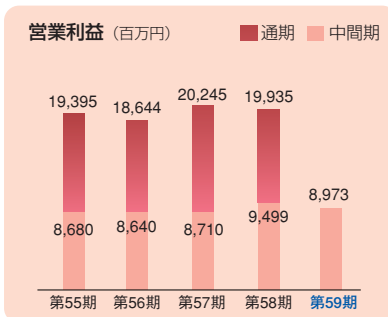
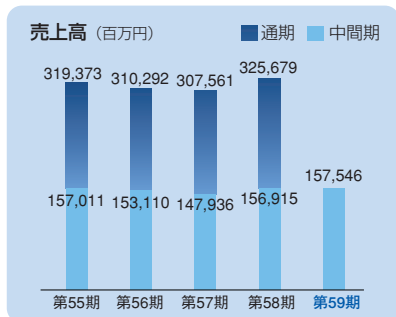
以上により、通期の売上高は330,000百万円、経常利益は21,200百万円、当期純利益は6,400百万円を見込んでおります。

2006年12月

代表取締役社長  
堤 殷



## 連結決算ハイライト







## 加工食品部門

加工食品部門の主要事業である国内即席麺事業のうち、カップ麺においては主力品である和風麺の「赤いきつね」「緑のためぎ」が堅調に推移したほか、映画とのタイアップ商品である「UDON」などが寄与し、和風麺全体では大きく伸長しました。また、ノンフライカップ麺の主力である「麺づくり」や袋麺、ワンタン類も堅調に推移した結果、国内即席麺事業は増収となりました。

生麺事業の売上は、新製品・リニューアル品が好調に推移したものの、天候不順の影響を受け、冷し麺等の夏季商品が低調に推移した結果、全体では前年並みの実績にとどまりました。

冷凍食品事業の売上は、冷凍麺及び業務用冷凍調理品は順調に推移したものの、冷凍野菜及び市販冷凍調理品が減収となり、全体では前年並みの実績となりました。

米飯事業の売上は、7月の新ライン稼働により供給不足を解消し、あったかシリーズ「新潟産コシヒカリ」の新発売もあり販売数量が増加いたしました。

その他加工食品では、「もずく・めかぶ」を中心としたフリーズドライスープ類が引き続き順調で、特にカップ入り製品については主要コンビニエンスストアに2年目の定番展開を維持

しています。

加工食品部門の国内売上は総じて順調に推移しましたが、海外売上は微減となり、加工食品部門全体の売上高は、前中間連結会計期間に比べ2.0%増収の123,519百万円となりました。



## 魚介類部門

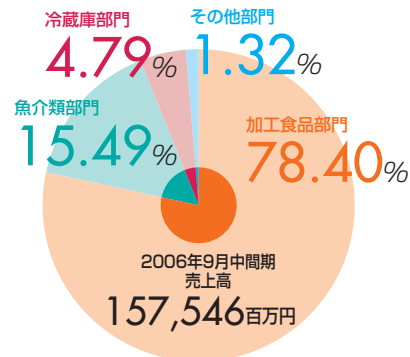
魚介類部門は、昨年から続いている円安傾向、ならびに中国・欧米諸国の魚食普及による需要拡大のため、輸入水産品の価格が高騰し、販売数量は低迷しましたが、販売金額は増加しました。その結果、売上高は前中間連結会計期間に比べ1.4%増収の24,401百万円となりました。



## 冷蔵庫部門

冷蔵庫部門は、顧客の在庫圧縮の動きが依然として続いており、業界全体では取扱量が減少している厳しい環境の中、営業活動の強化により新規顧客の開拓ならびに取扱貨物を高収益貨物へシフトしたことにより、売上高は前中間連結会計期間に比べ3.9%増収の7,549百万円となりました。

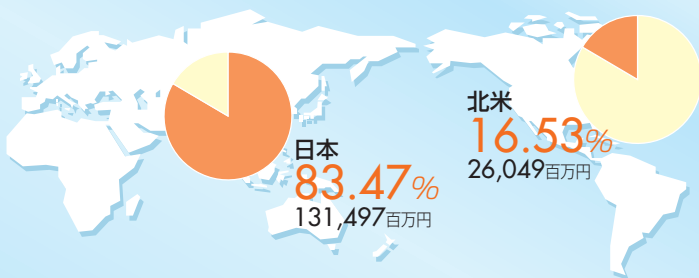
## 事業セグメント別売上高



## ■その他部門

その他部門は、輸入牛肉・輸入加工品の販売ならびに不動産賃貸等が主であります。化粧品製造販売を営む国内連結子会社を株式譲渡したことにより売上が減少したこと、牛肉需要の減退によりカナダ産・米国産牛肉の輸入販売を行う国内連結子会社の売上が減少したことなどから、売上高は前中間連結会計期間に比べ53.7%減収の2,077百万円となりました。

## 所在地別売上高



日本は、加工食品部門の主要事業である即席麺のうち、和風麺が大きく伸長し、その他の加工食品、魚介類、冷蔵庫部門も堅調に推移した結果、売上高は131,497百万円となりました。

北米は、即席麺事業の売上が微減となり、売上高は26,049百万円となりました。

# 中間連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当中間期末 2006.9.30	前中間期末 2005.9.30	前期末 2006.3.31
<b>資産の部</b>			
流動資産	102,115	100,963	103,067
現金及び預金	31,431	30,447	33,093
受取手形及び売掛金	43,501	42,593	43,086
たな卸資産	22,171	22,766	21,737
繰延税金資産	1,067	1,661	2,106
その他	4,026	3,562	3,106
貸倒引当金	△83	△69	△62
固定資産	114,444	119,603	120,238
有形固定資産	92,967	96,695	96,436
無形固定資産	2,562	2,681	2,402
投資その他の資産	18,914	20,227	21,399
資産合計	216,560	220,567	223,306

科目	当中間期末 2006.9.30	前中間期末 2005.9.30	前期末 2006.3.31
<b>負債の部</b>			
流動負債	44,266	54,216	46,573
固定負債	26,906	27,671	29,194
負債合計	71,172	81,887	75,767
<b>少数株主持分</b>			
少数株主持分	－	9,510	9,972
<b>資本の部</b>			
資本金	－	18,969	18,969
資本剰余金	－	20,155	20,155
利益剰余金	－	92,740	98,366
その他有価証券評価差額金	－	2,650	4,073
為替換算調整勘定	－	△2,335	△949
自己株式	－	△3,011	△3,049
資本合計	－	129,169	137,566
負債、少数株主持分及び資本合計	－	220,567	223,306
<b>純資産の部</b>			
株主資本	133,110	－	－
資本金	18,969	－	－
資本剰余金	21,412	－	－
利益剰余金	96,552	－	－
自己株式	△3,823	－	－
評価・換算差額等	2,206	－	－
その他有価証券評価差額金	2,953	－	－
繰延ヘッジ損益	160	－	－
為替換算調整勘定	△907	－	－
少数株主持分	10,069	－	－
純資産合計	145,387	－	－
負債純資産合計	216,560	－	－

### 会計基準の改正について

2006年5月施行の会社法により、会計基準を変更しております。

#### 1. 貸借対照表

「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

#### 2. 株主資本等変動計算書

【連結】「連結剰余金計算書」が廃止され、「連結株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額を、連結ベースでご報告するために作成する計算書類です。

【単体】「利益処分計算書」が廃止され、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これに伴い、期中における剰余金の変動は、新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、損益計算書末尾の「未処分利益」の計算区分が廃止されました。



## 中間連結損益計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006.4.1~2006.9.30	2005.4.1~2005.9.30	2005.4.1~2006.3.31
売上高	157,546	156,915	325,679
売上原価	101,981	101,701	207,905
売上総利益	55,565	55,213	117,774
販売費及び一般管理費	46,591	45,713	97,838
営業利益	8,973	9,499	19,935
営業外収益	1,485	911	2,178
営業外費用	400	483	962
経常利益	10,059	9,927	21,151
特別利益	1,114	5,436	5,694
特別損失	5,572	841	2,050
税金等調整前中間(当期)純利益	5,601	14,523	24,795
法人税、住民税及び事業税	3,699	5,733	7,995
法人税等調整額	989	-	1,828
少数株主利益	608	602	1,157
中間(当期)純利益	304	8,188	13,813

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位: 百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2006.4.1~2006.9.30	2005.4.1~2005.9.30	2005.4.1~2006.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,973	9,482	23,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,414	189	2,238
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,573	△14,162	△23,557
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	271	468
現金及び現金同等物の増減額	△10,972	△4,218	3,015
現金及び現金同等物の期首残高	32,826	29,809	29,809
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	-	1	1
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	21,853	25,592	32,826

### 中間連結財務諸表 POINT

#### <中間連結貸借対照表>

前中間期末に比べ総資産が4,007百万円減少しております。主な要因は、連結子会社の減少に伴う固定資産の土地の減少と前期に償還した社債の減少によるものであります。

#### <中間連結損益計算書>

前中間期に比べ売上高は0.4%増収の157,546百万円となりましたが、中間純利益は96.3%減益の304百万円となりました。主な要因は、減損会計基準に基づき、連結子会社ののれんおよび有形固定資産に対する減損損失を特別損失に計上したことによるものであります。

## 中間連結株主資本等変動計算書

(単位: 百万円)

	当中間期 (2006.4.1~2006.9.30)						評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	株主資本 利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	18,969	20,155	98,366	△3,049	134,441	4,073	-	△949	3,124	9,972	147,538
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△2,047		△2,047						△2,047
役員賞与			△70		△70						△70
中間純利益			304		304						304
自己株式の取得				△4,075	△4,075						△4,075
株式交換		1,256		3,301	4,558						4,558
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△1,119	160	41	△917	96	△820
中間連結会計期間中の変動額合計	-	1,256	△1,813	△774	△1,331	△1,119	160	41	△917	96	△2,151
平成18年9月30日残高	18,969	21,412	96,552	△3,823	133,110	2,953	160	△907	2,206	10,069	145,387



## 中間単体財務諸表

### 中間単体貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期末 2006.9.30	前中間期末 2005.9.30	前期末 2006.3.31
<b>資産の部</b>			
流動資産	77,845	82,159	80,437
固定資産	92,756	91,606	91,011
有形固定資産	54,802	56,602	55,265
無形固定資産	2,068	2,376	2,132
投資その他の資産	35,885	32,627	33,613
資産合計	170,601	173,766	171,448
<b>負債の部</b>			
流動負債	50,619	58,921	52,357
固定負債	20,936	20,414	21,868
負債合計	71,556	79,335	74,225
<b>資本の部</b>			
資本金	—	18,969	18,969
資本剰余金	—	20,155	20,155
利益剰余金	—	54,792	56,251
その他有価証券評価差額金	—	2,483	3,845
自己株式	—	△1,970	△1,999
資本合計	—	94,430	97,223
負債資本合計	—	173,766	171,448
<b>純資産の部</b>			
株主資本	96,180	—	—
資本金	18,969	—	—
資本剰余金	21,412	—	—
利益剰余金	56,004	—	—
自己株式	△206	—	—
評価・換算差額等	2,864	—	—
その他有価証券評価差額金	2,862	—	—
繰延ヘッジ損益	1	—	—
純資産合計	99,045	—	—
負債純資産合計	170,601	—	—

### 中間単体損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 2006.4.1~2006.9.30	前中間期 2005.4.1~2005.9.30	前期 2005.4.1~2006.3.31
売上高	103,954	103,736	218,558
売上原価	60,956	62,326	129,433
売上総利益	42,997	41,410	89,124
販売費及び一般管理費	39,162	37,794	81,031
営業利益	3,834	3,616	8,092
営業外収益	1,099	971	1,734
営業外費用	403	504	916
経常利益	4,530	4,083	8,910
特別利益	674	5,798	6,093
特別損失	990	722	2,713
税引前中間(当期)純利益	4,214	9,159	12,290
法人税、住民税及び事業税	1,511	2,021	3,146
法人税等調整額	714	1,644	2,191
中間(当期)純利益	1,988	5,493	6,952
前期繰越利益	—	2,057	2,057
中間(当期)未処分利益	—	7,550	9,010

### 中間単体株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	当中間期(2006.4.1~2006.9.30)												純資産合計	
	株主資本							評価・換算差額等						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計				
平成18年3月31日残高	18,969	20,155	—	20,155	2,593	44,648	9,010	56,251	△1,999	93,377	3,845	—	3,845	97,223
中間会計期間中の変動額														
固定資産圧縮積立金の積立						2,892	△2,892	—	—	—				—
固定資産圧縮積立金の取崩						△252	252	—	—	—				—
別法積立金の積立						2,000	△2,000	—	—	—				—
剰余金の配当						△2,184	△2,184	—	—	△2,184				△2,184
役員賞与						△51	△51	—	—	△51				△51
中間純利益						1,988	1,988	—	—	1,988				1,988
自己株式の取得									△4,075	△4,075				△4,075
株式交換			1,256	1,256					5,869	7,125				7,125
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)											△982	1	△981	△981
中間会計期間中の変動額合計	—	—	1,256	1,256	—	4,640	△4,887	△246	1,793	2,803	△982	1	△981	1,821
平成18年9月30日残高	18,969	20,155	1,256	21,412	2,593	49,288	4,123	56,004	△206	96,180	2,862	1	2,864	99,045





# 商品ラインアップ

## ■ 即席麺類

[和風麺シリーズ]



「赤いきつねうどん」



「緑のためぎ天そば」



「黒い豚カレーうどん」



「あつあつ豚汁うどん」

お馴染みの、和風麺シリーズは、ますますラインアップも充実して、ご好評を頂いています。大盛タイプや豆カップ、地域の嗜好に合わせた商品など、お客様のご要望に合わせたきめ細かな対応を行っています。

[袋麺]



「昔ながらの中華そばしょうゆ」



「昔ながらのみそラーメン」



「昔ながらのとんこつラーメン」

発売以来、順調に売上を伸ばしているノンフライ袋麺シリーズ。麺は北海道小麦100%使用。だしの効いたスープが麺のおいしさを更に引き立てます。

[ワンタン]



「ワンタン しょうゆ味」

なめらかな食感が自慢のワンタンしょうゆ味。お夜食やランチのサイドメニューとして好評です。

## ■ 生麺

[焼そば]



「焼そば3人前」



「塩焼そば3人前」



「ナポリタン焼そば3人前」

発売から30年以上愛され続けるマルちゃん“焼そば3人前”。2006年2月より“ナポリタン焼そば3人前”を加え、シリーズ品を充実させました。

[ラーメン]



「北の味わい醤油とんこつ」



「北の味わい味噌とんこつ」



「九州ガラ焼き黒とんこつ」

2食生ラーメンの主力品に成長した“北の味わい”シリーズ。2006年8月より“九州ガラ焼き”シリーズを発売し、生ラーメンのラインアップを充実させました。

## ■ チルド食品



「えびシュウマイ」



「かにシュウマイ」



「黒豚シュウマイ」

好調に推移している“えびシュウマイ”“かにシュウマイ”。“黒豚シュウマイ”を加えてシリーズ品を充実させました。

## ■ 加工食品

[調味料]



「だしの素100g」

鰹風味豊かなだしの素。顆粒タイプの4袋入り。



「チャーハンの素 焼豚」



85gx3本

「栄養機能」と「安心・安全」を兼ね備えたソーセージ。

[スープ]



「もずくスープ5P」



「めかぶスープ5P」



「カップ入りもずくスープ」

健康ブームにのって順調に推移しているフリーズドライスープ。



## ■ 会社概要

**創立** 1953年3月25日  
**本社** 〒108-8501  
 東京都港区港南二丁目13番40号  
 電話 (03) 3458-5111 (代表)  
**資本金** 189億6,952万円  
**従業員数** 1,579名 (男性1,094名 女性485名)  
**事業所数** 工場6、冷蔵庫13、支店・営業所28  
**関係会社** 国内関係会社29社  
 (うち、連結子会社18社、非連結子会社9社、関連会社1社、  
 持分法適用会社1社)  
 海外関係会社8社  
 (うち、連結子会社5社、非連結子会社3社)

## ■ 役員

取締役会長	深川 清司	常勤監査役	北村 勝久
取締役社長	堤 殷	常勤監査役	南 守之
専務取締役	織田 睦彦	監査役	高良 明
常務取締役	井上 安雄	監査役	森 勇
常務取締役	成滝 勝郎		
取締役	久保 恭司		
取締役	目羅 甚一		
取締役	谷口 文夫		
取締役	佐藤 勝英		
取締役	山内 寛		
取締役	山下 透		
取締役	三浪 博行		
取締役	菅原 謙二		

## ■ 主要グループ企業

### 国内連結子会社

- 八戸東洋株式会社
- 甲府東洋株式会社
- フクシマフーズ株式会社
- 東洋冷凍株式会社
- サンリク東洋株式会社
- 株式会社酒悦
- 新東物産株式会社
- 東部貿易株式会社
- 築地東洋株式会社
- 三協フード工業株式会社
- 伊万里東洋株式会社
- 株式会社フレッシュデザイナー
- 株式会社東京商社
- 銚子東洋株式会社
- ユタカフーズ株式会社
- 田子製氷株式会社
- 石狩東洋株式会社
- ミツワデリー株式会社

### 海外連結子会社

- MARUCHAN, INC.
- MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- MARUCHAN DE MEXICO, S.A. DE C.V.
- PAC-MARU, INC.
- SEAFREEZE LIMITED PARTNERSHIP

### 主要非連結子会社 他

- ヤイズ新東株式会社
- 三幸養魚株式会社
- 埼玉東洋株式会社
- 湘南東洋株式会社
- 東和エステート株式会社
- スルガ東洋株式会社
- 下田東水株式会社
- 海南東洋水産有限公司
- 湛江東洋水産有限公司
- 株式会社いらご研究所
- 青島味豊調味食品有限公司
- 仙波糖化工業株式会社 ※

※持分法適用関連会社



# 株式情報 (2006年9月30日現在)

## 株式の状況

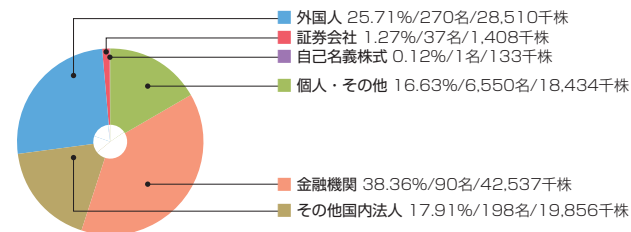
発行可能株式総数 ..... 427,000,000株  
 発行済株式の総数 ..... 110,881,044株  
 株主数 ..... 7,146名

## 大株主の状況

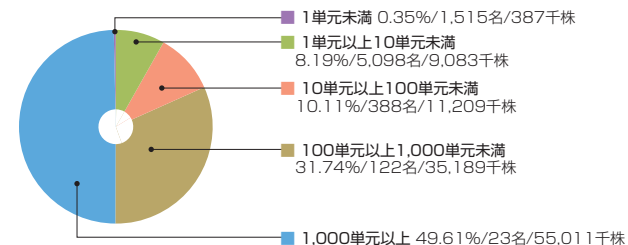
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,321	6.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,235	6.53
田子製氷株式会社	6,021	5.43
株式会社三井住友銀行	2,900	2.62
バンクオブニューヨーク・エムクライアントアカウンツィーアイエス	2,719	2.45
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505103	2,714	2.45
あいおい損害保険株式会社	2,561	2.31

(注) 持株比率は小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しております。

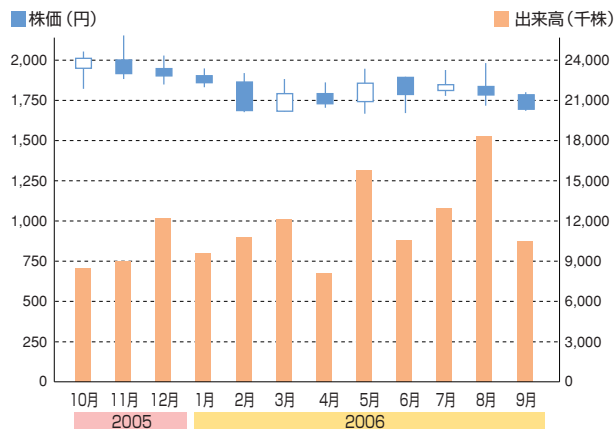
## 所有者別株式分布状況



## 所有株数別株式分布状況



## 株価及び売買高の推移(東京証券取引所)



## 株主優待制度

当社では、株主の皆様への利益還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

2006年3月期の実績としましては、3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し5,000円相当の自社製品をそれぞれ6月に進呈させていただきました。



3,000円相当の製品例

## ■ 株式事務手続きのご案内

当社の株式事務を取扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様様の住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定などの用紙のご請求を電話及びインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

## ■ 電話によるご請求

受付フリーダイヤル 0120-87-2031（操作の方法は、音声案内にしたがってください。）

## ■ インターネットによるご請求

ホームページアドレス [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご照会ください。

情報満載の当社HPもご覧ください。

<http://www.maruchan.co.jp/>

東洋水産の企業サイトでは、事業紹介や商品情報・IR情報を始めとした最新ニュースを掲載しております。また、マルちゃん製品を使った「オリジナルレシピ集」や「CMライブラリー」など、さまざまな当社商品のあれこれやお役立ち情報をご案内しています。どうぞぜひ一度ご覧ください。



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は毎年3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし、電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 (アドレス) <a href="http://www.maruchan.co.jp/">http://www.maruchan.co.jp/</a>
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-78-2031(フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）

# マルちゃん雑学館 Vol.5

## 「緑のたぬきのルーツ」



1963年発売の「たぬきそば」



現在の「緑のたぬき天そば」

赤いきつねうどん発売の2年後の1980年に生まれ、日本を代表する即席和風カップ麺に育った「マルちゃん緑のたぬき天そば」。

そのルーツは、1963年に業界初の即席和風麺として誕生した「たぬきそば」でした。それまで、中華そばしかなかった即席麺市場に、新しいジャンルを開拓し、昔からの「乾麺」の日本そばには無い、スープが付いた手軽さが、多くのお客様から評価を頂きました。

その後、袋麺の「天ぶらそば」（1970年）、「カップ入り天ぶらそば」（1975年）を経て、手軽でおいしく食べられる即席日本そばの伝統は、「緑のたぬき天そば」に引き継がれています。

## 東洋水産株式会社

 TOYO SUISAN

〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号

TEL (03) 3458-5111(代表)

ホームページ <http://www.maruchan.co.jp/>

  
古紙/PLA配合率 100%再生紙を使用  
しています

  
地球環境に配慮した大豆油  
インキを使用しています